

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	プロフェッショナル・インターンシップ・イン・ビジネス
	学部・研究科等名	会計研究科
	担当教職員名・役職	柴健次 教授・インターンシップ・プログラム委員長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	8
	受入企業等数	5
	受入企業等名	株式会社オービック住友精化株式会社株式会社力ネカあすか税理士法人住友理工株式会社
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ先が製造業の場合、学生は本社業務と工場業務に携わる。前者では、本社経理担当者から企業会計における課題(管理会計と財務会計の連携、海外子会社を含む連結業績管理等)のレクチャーを受けた後、学生は大学院で学んだ内容を踏まえながら、本社経理担当者と意見交換を行う。後者では、学生は、工場において原価計算の現場を体験する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次・2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休業期間中の5日間～10日間(実働)のインターンシップを組み合わせた科目「プロフェッショナル・インターンシップ・イン・ビジネス」として実施している。本科目は民間企業でのインターンシップを通じて、主として経理部門や財務部門において求められる適切な職業観を早期に修得することを目的とする。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習の主担者であるインターンシップ・プログラム委員長が、まずインターンシップの趣旨目的を話した後、本科目における成績評価などシラバス全般に対する説明を行う。次に、インターンシップ・プログラム委員会の各委員が、インターンシップ中の注意事項を伝える。その際、インターンシップ・プログラム委員会所属の実務家委員は、インターンシップの受け入れ側から見た指導もを行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後授業では、就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、報告会を実施している。学生は資料などを用意してプレゼンを行った後、インターンシップ・プログラム委員からの質問に答えなければならない。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生に提出を課した業務日誌及び実習報告書等を用いて、学生のインターンシップ前後の変容を客観的に把握した上で、事業授業における質疑応答を課すことで、学生の自己理解を促し、これまでの学修の深化や今後の大学院教育への動機づけに資するような指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	

⑤	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	住友理工株式会社において、10日間のインターンシップを行い、株式会社オービック、住友精化株式会社、株式会社カネカ、あすか税理士法人において、5日間のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの意義や目的を受入企業に御理解いただいた上で、受入企業のニーズにも応えられるようにするため、プログラムの設計の段階から参画いただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://syllabus3jm.kansai-u.ac.jp/syllabus/search/curri/CurriSearchTop.html">http://syllabus3jm.kansai-u.ac.jp/syllabus/search/curri/CurriSearchTop.html</a>
問い合わせ先	大学等名	関西大学
	担当部署名	専門職大学院事務グループ
	担当者役職名	
	担当者氏名	神宮司健太・宇佐美冴子
	電話番号	06-6368-1263
	メールアドレス	kaikei@ml.kandai.jp